

### 施設キュウリの摘心栽培に関する研究

(第3報) 2主枝仕立て法について

野口敏治・利光泰郎・藤枝国光

(大分県農業技術センター)

NOGUCHI, T., TOSHIMITSU, Y. and FUJIEDA, K.

Studies on the Topping Culture of Cucumber Plants in Plastic Greenhouses.

(III) On the Double Stem Training.

ハウス抑制栽培ならびに半促成栽培で2主枝仕立て法について検討した。

#### I 試験方法

(1) ハウス抑制栽培 雑種群の「夏埼落3号」・「U-2」を用い、親づる1本仕立てと2節心抜き(第1葉期に2葉残す)2本仕立て・4節摘心(第4葉期に4葉残す)2本仕立てを比較した。1本仕立て区は9月3日、2本仕立て区は8月30日には種してフィシフォリアにつき木し、いずれも9月25日に定植した。主枝は180cm、側枝(1本仕立て株では子づる、2本仕立て株では孫づる)は2節で摘心し12月14日まで収穫した。

(2) 半促成栽培 試験(1)の2品種に「久落H型」(華南系)を加え、1月6日には種し、つき木して2月24日に定植した。主枝は1本仕立て区では22節2本仕立て区では20節で摘心し、6月19日まで収穫した。

#### II 結果および考察

(1) 4節摘心区では両品種とも100%2主枝株となったが、第2節で心抜きすると2主枝株となったのは「U-2」で98%、「夏埼落3号」では63%であった。2本仕立て株の主枝の伸長は、4日おそまきした1本仕立て株よりもおそく、さらに、2節心

抜き区の場合は同一株の主枝間の生長差がいちぢるしく現われた。側枝の主枝当たりの発生率は1本仕立て株が高く、平均側枝長は発生早晚を反映して1本仕立て株が長かった。2節心抜き2本仕立て株では、発生率、側枝長ともに上位主枝と下位主枝間の差が大きく現われた。収量は1本仕立て区に対して2本仕立て区が明らかな減収を示した。2節心抜き区と、4節摘心区とでは収量に有意差は認められなかった。

(2) 2節心抜き株では、「久落H型」は25%2主枝株がえられなかったが、他の2品種は100%2主枝株となった。しかし、上位主枝と下位主枝の生育差が大きかった。4節摘心株では生育のそろった2主枝がえられた。しかし1本仕立て株に比べ、10日以上生育のおくれがみられ、側枝の発生率も1本仕立て株に劣った。収量はハウス抑制栽培と同様に、2本仕立て区が1本仕立て区よりも明らかに減収となった。

このように2主枝仕立ては省力的であるが、生育は遅れ、収量は1~2割の減収が予想されるので有利とはいいがたい。労力的に止むをえない場合にかぎり採用すべきで、その場合は多少早まきし、第3~4葉期に適応することが望ましい。

第1表 生育および収量

試験	品種	項目	処理	夏埼落3号				U-2				久落H型									
				親づる		2節心抜き2本		4節摘心2本		親づる		2節心抜き2本		4節摘心2本		親づる		2節心抜き2本		4節摘心2本	
				1本	上位	下位	上位	下位	1本	上位	下位	上位	下位	1本	上位	下位	上位	下位	1本	上位	下位
ハウス抑制栽培 (1971)		10月9日草たけ	50	93	30	61	47	81	87	47	67	56	-	-	-	-	-	-	-	-	
		収量	19.1	17.6	13.0	15.4	15.6	15.8	15.2	12.0	13.6	14.4	-	-	-	-	-	-	-	-	
		果数 (1主枝当たり)	1.97	1.80	1.23	1.60	1.65	1.67	1.54	1.28	1.43	1.45	-	-	-	-	-	-	-	-	
半促成栽培 (1972)		10月13日草たけ	42	29	23	7	9	46	5	21	6	5	45	6	21	6	7				
		収量	41.9	33.4	35.3	36.5	32.6	34.3	26.4	33.2	29.3	27.8	41.3	26.4	33.1	31.9	29.3				
		果数 (1主枝当たり)	4.68	3.92	4.11	4.21	3.79	4.05	3.27	4.04	3.54	3.43	4.63	3.19	3.90	3.80	3.31				